

令和2年度山梨大学教育学部推薦入学試験 言語教育コース小論文

【問】次の文章は、朝日新聞2019年3月27日の記事の抜粋です。この記事をもとに議論する場合、どのような論点が考えられますか。はじめに論点を一つ示した上で、それについてのあなたの意見を述べなさい。全体で600字以上800字以内で書きなさい。

下書き用紙、解答用紙ともに回収します。下書き用紙は、採点の対象にはしません。

学習指導要領の改訂では「主体的・対話的で深い学び」が目玉となり、検定基準にも「適切な配慮を」と明記された。先生が一方的に知識を教えるのではなく、討論やグループ活動などを通じて子どもが学び合う「アクティブ・ラーニング」を重視する考え方で、教科書も関連の記述が随所で増えた。

日本文教出版の社会の本文は全編にわたって、児童の対話形式が主となった。例えば3年の「安全なくらしを守る」という単元では、「わたしたちの身の回りには、どのような危険があるのだろうか」という女子の疑問に対し、他の児童が加わって家の近所や通学路で危険を感じた経験を話し合う。そのうえで、消防や警察などによる安全の取り組みを調べ、「安全マップ」を作る。

東京書籍は算数の2～6年の冒頭に「学びのとびら」を設け、「問題をつかむ」「自分の考えを書く」「友達と学ぶ」「振り返ってまとめる」という手順を示した。4年では「ガム6個入り1箱で24円。18個だといくら？」という問題で、「ガム1個分の価格」を求める男子と、「箱いくつ分か」を考える女子が登場。児童に、それぞれの考えを説明させる。

「対話的」な記述は増えても「主体的」や「深い」については教科書会社も悩んだという。ある会社は「社内でもかなり議論した。例えば学習のめあてを提示すれば主体的な学びにつながる、とか」。大日本図書は理科で「やってみよう」のコーナーを「深めよう」に変えた。

文科省教科書課はアクティブ・ラーニングについて「ディベートやグループワークなど、話し合う活動を促進するページは前からあるが、今回は色々と工夫、充実させている」と説明する。申請された164点の教科書中、「地図」2点を除く162点で採り入れられたという。ただ、「具体的な例を挙げて欲しい」という記者の質問には答えていない。

新しい教科書を見た若手男性教諭は「教科書にヒントが載っていて授業もスラスラ進む」と期待する。一方、別の男性教諭は「こういう議論をし、こうまとめて、このように考察しましょうと教科書で示したら主体的ではない」と語る。女性教諭も「本当の対話的な学びは、相手の話にどれだけ突っ込んでいくか。あえて教科書で型を提示し、あてはめるものとは違うはず」と話した。